

ティーチング・ポートフォリオ(教育業績ファイル)

教員氏名	吉原 潤
主な担当科目	インターンシップ①,インターンシップ②,フィールドインターンシップ①,フィールドインターンシップ②,企画制作演習Ⅰ,芸術運営基礎演習
2025年の教育目標・授業に臨む姿勢	修士課程のゼミ担当が3年目となり、今年度も修士論文の提出者がいるため、執筆への指導を十分に行いたい。芸術特別研究は、旧カリキュラム履修者の最終年度にとり、学生の取りこぼしがないよう努力したい。主担当となっている、「企画制作演習Ⅰ」では翌年の自主企画につながるような企画力の向上、インターンシップ科目では個々の学生に適切な受け入れ先の紹介に努めたい。その他の科目でも、シラバスで掲げた教育目標を達成できるように心がける。
2025年の教育に関する自己評価	修士論文の履修者1名は無事に提出させることができた。芸術特別研究は、書記職は2024年度で任から外れたが、24年度内は分科会として可能な対応をするとともに、25年度は引き続き分科会に所属していたため、それまでの書記時代の経験などから分科会で様々なアドバイスを行うことができた。「企画制作演習Ⅰ」、インターンシップ科目もともに、所期の目標を達成できたと感じている。その他の科目についても教育目標はおおむね達成できたのではないかと考えている。
2025年のFD活動に関する自己評価	全体FDでは日々の業務からはあまり考える余裕のない大局的な観点から、新しい知見が得ることができた。今日の変化のスピードが速い社会情勢と連動して大学の変化も早い、全体FDでは時代に即したテーマが取り上げられるため、自身の知識のアップデートが出来たと感じている。アートマネジメント分科会FD研修会は、毎年感じることだが非常勤の先生という外部の視点からの学生の見え方が、非常に勉強になっている。芸特分科会FDについては、新カリキュラム下で新科目となったため試行を重ねており、さらなる改善に向けての有意義な意見交換が出来た、
授業改善のために取り入れた研修内容	全体FDでは、授業に直結するわけではないが、大学を取り巻く今日の状況を知ることで、大局的な観点での現在の社会における大学の置かれた立場について、理解することが出来た。芸術特別研究分科会FDでは、学生のニーズに合わせる形で科目での新たな芸術の鑑賞のあり方について、それぞれのコースの先生ならではの意見を聞くことが出来た。またアートマネジメント分科会FDでは、特に増加している中国人留学生への向き合い方について、それぞれの授業での工夫を伺い、自身の担当科目に参考になる部分が多くあった。

2025 年度(秋学期)「学生による授業アンケート」結果に対する授業改善計画書

教員コード:2050 教員名:吉原 潤

1)アンケート結果に対する所見

授業アンケートでは、多くの科目において概ね良好な評価を得ることができた。特に、インターンシップや実習科目では、実践的な学修機会に対する評価が高く、自由記述からも授業内容への満足度や学びの充実感がうかがえた。実際の現場と結び付いた学修機会を提供することが、学生の関心や学修意欲の向上につながっているものと考えられる。

また、授業の分かりやすさや教育到達目標の達成度についても概ね肯定的な評価が得られており、授業内容や進め方については一定の評価を得られたものと受け止めている。一方で、授業時間外学修時間には科目ごとの差も見られ、学修への取り組み方には個人差があることがうかがえた。学生の学修状況を踏まえながら、より効果的な学修支援について検討していきたい。

2)要望への対応・改善方策

アンケート結果を踏まえ、今後も実践的な学修機会を重視しながら、授業内容や到達目標をより分かりやすく伝える工夫を続けていきたい。特に演習・実習系科目では、授業の目的や到達目標を適宜確認しながら進めることで、学生が自身の学びを振り返りやすい環境づくりに努める。

また、授業時間外学修についても、課題の目的や取り組み方を丁寧に説明し、学生が主体的に学修に取り組めるよう支援していく。さらに、インターンシップやフィールドワーク等で得た経験を授業内で共有・振り返る機会を設け、学びの定着につなげていきたい。授業内での対話や意見交換の機会も大切にしながら、理解を深められる授業運営を心がけたい。

3)今後の課題

今後は、学生の満足度だけでなく、学修成果をどのように把握し、授業改善につなげていくかが課題であると考えている。そのため、レポートや発表、振り返り等を活用しながら、学生の学びの状況をより丁寧に確認していきたい。

また、学生の経験や関心には幅があることから、それぞれの状況に応じた学びの機会を提供できるよう授業運営を工夫していく必要がある。あわせて、芸術文化分野を取り巻く社会状況や現場の動向を授業に取り入れながら、教育内容の充実にも努めていきたい。今後も学生からの意見を参考にしながら、より良い授業づくりを継続していく。

以 上